

頑張れ教室長！

吾妻へっぽこくん

告白だ！模試だ！へっぽこくんの巻

登場人物（名前以外はノンフィクション・実話です）

愛子教室 EthicsCommittee（倫理委員）白瀬（緊急出演）

ナレーター小嶋（友情出演）

オヤジ：吾妻へポ夫

母上様：吾妻へポ子

兄上様：吾妻へポ朗

主人公：吾妻へっぽこ（ ↓ ）



倫理委員・白瀬：ストーリーの前に「第一話から第三話までの ↑にある写真ですが、徐々に細く見せるようにしていた疑いがありました。Boss である教室長ですがこのような姑息な手段をとり、より若く見せようとしていたかと思うと情けなく、恥ずかしい思いです。皆様には、事実の吾妻（現在の）↑で紹介させていただきます。誠に申し訳ございませんでした。

ナレーター小嶋：へっぽこは2年生になっていました。中間テスト・期末テストでの最高順位は8位まで登りつめました。どうしても【あこがれ／愛】さんの順位には及びませんでした。そこでへっぽこは常に1位をキープしていた【優秀くん】に相談。ある問題集をお勧めされました。そして、中学校では実力テスト（模試）が年に数回ありました。この実力テストは偏差値が出るもので、県内（福島）の順位も出るものです。この模試にへっぽこはかけていました。

へっぽこ：「ようし！もっと勉強して、偏差値というもので【あこがれ／愛】さんに勝つぞ」

〔模試に向けたへっぽこの勉強方法・若干危険です〕

ナレーター小嶋：へっぽこの普段の就寝時刻は9：30でした。それでは、勉強時間が足りません。そこでへっぽこは8時から11：30までの3時間半毎日勉強すると決めました。普段9：30に寝ていたのだから、眠気に襲われます。へっぽこは部屋のエアコンや暖房器具をつかわず（当時12月）室温を10度以下にし、ワザと靴下を脱ぎ、裸足になって足が冷たくなるのを我慢しながら勉強に励みました。本当に集中しだすと眠気や足の硬直も忘れるのでした。

へっぽこ：「11：30だ。もう寝るか。ん？痛たた。足が固まっている（冷たくなって）」

ナレーター小嶋：へっぽこは集中していたので、自分の足が冷たくなっているのに気が付いていませんでした。動機は不純でしたが、それだけ勉強に本気になっていたのです。

へっぽこ：「しかし【優秀くん】が使っている問題集はすごいな。やっぱり【優秀くん】だ。」

ナレーター小嶋：それもそのはず、【優秀くん】（優秀くんは後に東京大学理科一類・物理学科に現役で行くことになります）が使っていた問題集は首都圏向けの最高水準問題集でした。問題は有名高校の入試問題を扱ったものです。灘高・開成高などの過去問です。

〔模試の結果配布〕

へっぽこ：「ん？。なんか結果表が真っ黒だぞ？」

ナレーター小嶋：担任の先生が個人個人、結果を渡していました。へっぽこの結果はうっすらと裏に写った所をみると真っ黒になっています。それは各教科の偏差値を表した棒グラフなのでした。

へっぽこ：「70点ちょいか。模試だからまあまあなのかな？」

ナレーター小嶋：なんということでしょう！（ピフォ～アフ・・・風）70点ではなく、偏差値が70を超えていたのです。さらに県内順位が2位とありませんか。

〔一目惚れから1年越しの告白へ〕

へっぽこ：「あの一【あこがれ／愛】さん！好きだから付き合ってください！」常にド直球です！

あこがれ／愛：「え？へっぽこくん？ う～ん。じゃあ一週間考えさせて」 次回へ続く

〔本日のへっぽこから学ぶ教訓〕

① 勉強でもなんでも多少のムリは必要だと思います。何かを犠牲にするから時間などが作れます。へっぽこはゲーム等を犠牲にし、目標に向かってストイックになることができました。

お子様で共感する所がございましたら・愛子教室 022-391-7551